



# Webアクセシビリティと 電子図書館のアクセシビリティ対応ガイドライン1.0

2024年8月28日（水）13:10-13:40

国立国会図書館総務部企画課 植村要、田幡琢磨



# 本日の内容

---

---

目標：

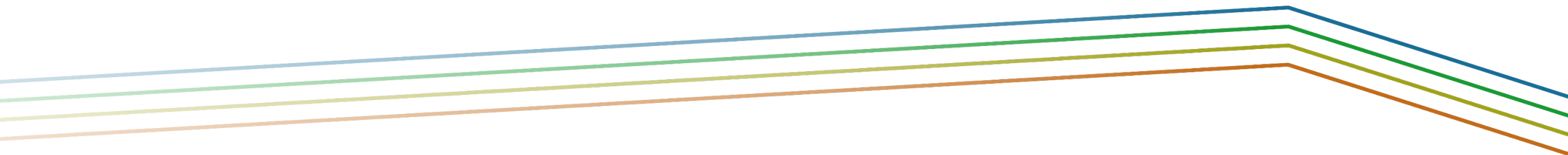
ウェブアクセシビリティとは何か理解する  
アクセシビリティ改善に向けて一歩踏み出す

内容：

- ウェブアクセシビリティとは何か
- 所属組織のウェブアクセシビリティ方針
- ウェブアクセシビリティ対応例
- 電子図書館のアクセシビリティ対応



# ウェブアクセシビリティとは何か



# ウェブアクセシビリティ（WA）とは何か（1）

高齢者や障害者を含めて、**誰もが**ホームページ等で提供される情報や機能を**支障なく**利用できること

（出典：総務省「[みんなの公共サイト運用ガイドライン（2024年版）](#)」 p. 22）

Accessibility  
= Access + Ability  
= A11Y



# WAとは何か（2）

---

---

- 視覚障害者等は支援技術を利用してウェブ上の情報にアクセスする
- アクセシビリティの対象は高齢者・障害者だけではない
- 一時的または状況的な障害のある状態も考慮の対象

参考：デジタル庁「[ウェブアクセシビリティ導入ガイドブック](#)」

（2024年3月29日発行） p. 8, p.11



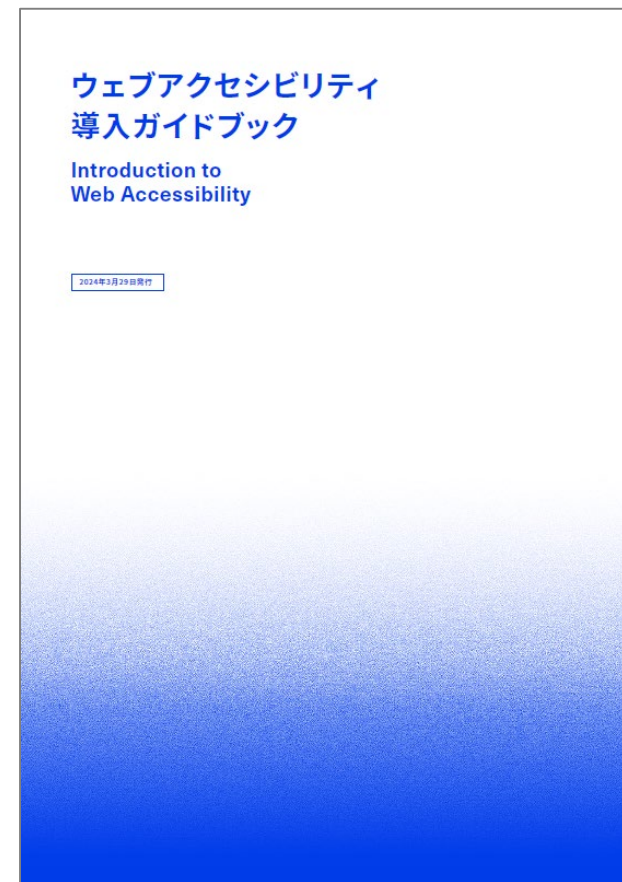
# ウェブアクセシビリティ導入ガイドブック

- デジタル庁「ウェブアクセシビリティ導入ガイドブック」（2024年3月最終改定）

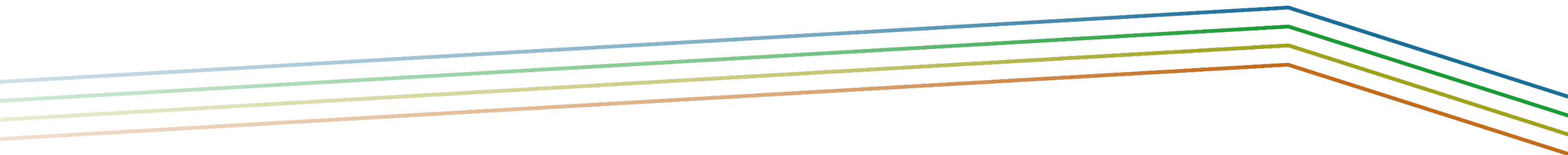
<https://www.digital.go.jp/resources/introduction-to-web-accessibility-guidebook/>

- ゼロから学ぶ初心者向け
- WAの考え方、取り組み方のポイントをデジタル庁での実例に基づいて解説
- 達成すべきことを、重大、必須、個別対応に分けて解説

**優先度は、重大＞必須**



# 所属組織のアクセシビリティ方針と その達成したい事項



# アクセシビリティ対応方針を調べよう

---

---

- 様々な組織や団体がウェブアクセシビリティ方針を公開している
  - 例1) 東京大学ウェブアクセシビリティ方針 (-2016 AA準拠)
  - 例2) 科学技術振興機構ウェブアクセシビリティ方針 (-2010 A準拠)
  - 例3) 科学未来館ウェブアクセシビリティ方針 (-2016 AA準拠)
- **【宿題】** 組織によって目標は異なる。所属組織の方針を調べて、ゴールを把握しましょう。





# 国立国会図書館のウェブアクセシビリティ対応

- JIS X 8341-3:2016 適合レベル**AA**に**準拠**  
→レベルA（25個）とAA（13個）の**全ての達成基準**を満たす
- レベルAAAのうち、次の4個の基準も達成することを目指す
  - 2.1.3 キーボード（例外なし）の達成基準
  - 2.3.2 3回のせん（閃）光の達成基準
  - 2.4.8 現在位置の達成基準
  - 3.2.5 要求による変化の達成基準
- **館内ホームページ**は、まずは適合レベル**A**に**準拠**を目指す



## 達成しないと利用者に重大な悪影響を及ぼすもの（重大）

- 自動再生はさせない（1.4.2 | 音声の制御）
- 袋小路に陥らせない（2.1.2 | キーボードトラップなし）
- 光の点滅は危険  
（2.3.1 | 3回の閃光、又は閾値以下、2.3.2 | 3回の閃光）
- 自動でコンテンツを切り変えない（2.2.2 | 一時停止、停止、非表示）

### 非干渉

利用者がウェブページの他の部分へアクセスすることを妨げていない状態

1.4.2、2.1.2、2.2.2、2.3.1の4つが非干渉の達成基準で、いずれも適合レベルA



# 達成しないと利用者に重大な悪影響を及ぼすもの（重大）（1）

自動再生はさせない

→（自動再生するなら）3秒以内で止めるか、一時停止ボタン



★音声の流れるページや動画広告などで自動再生する場合は、一時停止またはミュートボタンをつける



# 達成しないと利用者に重大な悪影響を及ぼすもの（重大）（2）

袋小路に陥らせない

→ダイアログ内にフォーカス可能な閉じるボタン



★ダイアログ内にフォーカス可能な閉じるボタンを置くことで、  
キーボードで閉じられるようにする



# 達成しないと利用者に重大な悪影響を及ぼすもの（重大）（3）

光の点滅は危険

→1秒に3回以上点滅させない



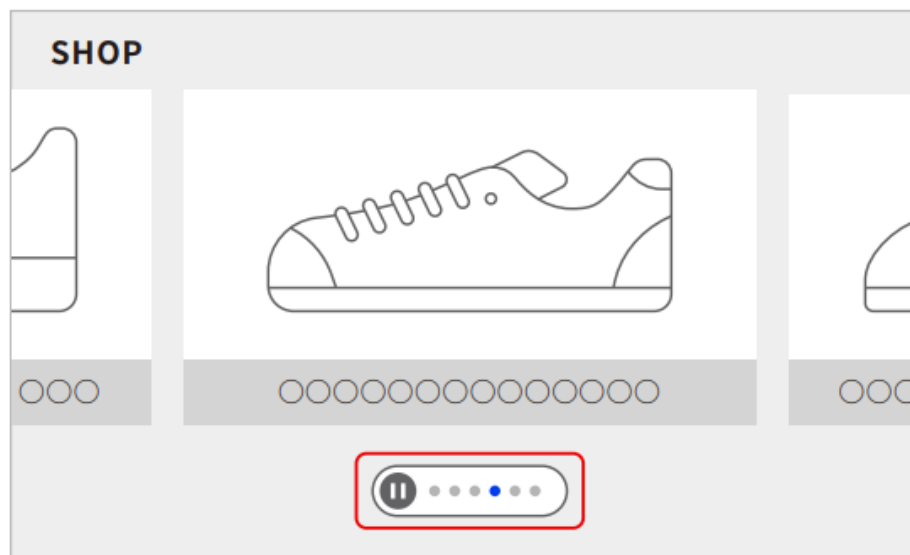
★アニメーションや映像などのコンテンツで、1秒に3回以上点滅させない



# 達成しないと利用者に重大な悪影響を及ぼすもの（重大）（4）

自動でコンテンツを切り替えない

→（自動で切り替えるなら）一時停止ボタン



★自動で切り替わるカルーセルだが、一時停止できる



# 必ず達成しなければならないもの（必須）（1）

- ロゴ・写真・イラストなどの画像が指し示している情報を代替テキストとして付与する（→スライド「代替テキスト」）
- キーボード操作だけで、サービスのすべての機能にアクセスすることができるようにする
- 操作に制限時間を設けてはいけない
- 赤字・太字・下線・拡大など単一の表現のみで情報を伝えてはいけない（→スライド「色・位置・形の違いだけで表現しない」）



## 必ず達成しなければならないもの（必須）（2）

- スクリーンリーダーで順に読み上げたときに、意味が通じる順序になっている
- 見出し要素だけで、セクションやブロックに含まれる要素を表現する
- 文字と背景の間に十分なコントラスト比を保つ（→スライド「コントラスト比」）
- テキストの拡大縮小をしても情報が読み取れる





# 必ず達成しなければならないもの（必須）（3）

- 文字や文字コード、フォントに関する注意  
文字コードはUTF-8を使用する、Webフォントや記号は注意して使用するなど
- ページの内容を示すタイトルを適切に表現する  
(→スライド「タイトル」)
- リンクを適切に表現する (→スライド「リンク」)
- ナビゲーションに一貫性をもたせる
- 同じ機能には、同じラベルや説明をつける



# 代替テキスト

---

---

---

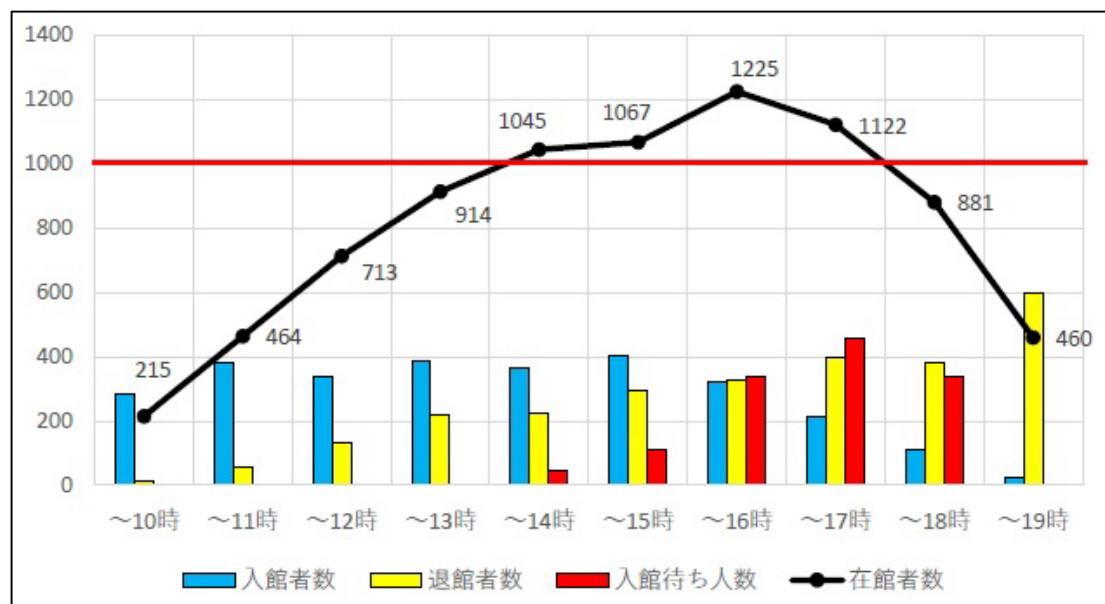
- 代替テキスト：写真やイラスト、グラフなど主に画像で提供される情報と同等の役割を果たすテキスト
- HTMLの<img>要素には、alt属性の指定が必須
- 装飾目的で、ユーザーに伝える必要がない画像の代替テキストは空（alt=""）にする



# 代替テキストの例

画像自体の視覚的な特徴を説明する必要はないが、画像と同じ意味を伝える

2019年12月の最終開館日の実績を基に試算した入館待ち人数



(NDL HP・ニュース  
2022年12月14日「[東京本館の年末年始の混雑について](#)」)

NG

alt="2019年12月の最終開館日の実績を基に試算した入館待ち人数を示したグラフです"

OK

alt="このグラフは、2019年の最終開館日である12月26日木曜日の在館者数の推移と、これを基に入館制限を実施した場合の入館待ち人数（試算）を示したものです。13時過ぎには1,000人を超え、17時過ぎまで1,000人を超える状況が続き、多数の入館待ちが発生することが見込まれます。"



# 色・位置・形の違いだけで表現しない

色・位置・形だけでなく、それ以外の手がかりも提供する

NG

- 赤文字の箇所は入力必須です

**住所**

- 左の丸いボタンを押してください

OK

- 住所 **必須**

- 左の丸い「同意」ボタンを押してください



# 手軽な検証方法

---

---

チェックツールを使用することでアクセシビリティの課題を検証可能

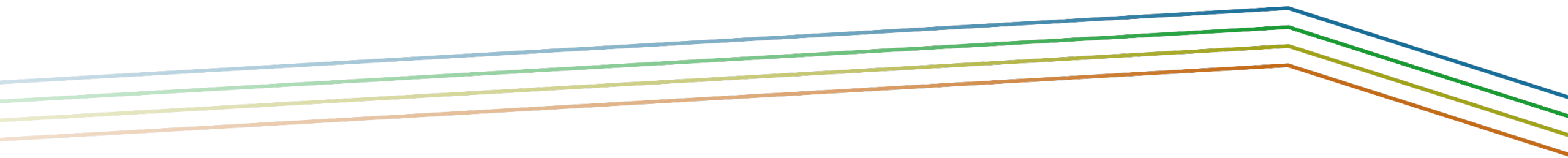
- **miChecker** : 総務省が開発し、提供するアクセシビリティ評価ツール  
[https://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/b\\_free/michecker.html](https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/b_free/michecker.html)
- **Lighthouse** : Webサイトを分析・診断するための、Google Chrome / Edgeの機能

✓ これらのツールで全ての項目を検証できるわけではありません

✓ 個別検証は専門家による目視でのチェックが含まれますのでご活用ください



# 電子図書館のアクセシビリティ対応 ガイドライン



# 作成の経緯

---

---

- 2019年6月 読書バリアフリー法施行  
正式名称は「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」
- 2020年7月 文部科学省及び厚生労働省において、  
「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」  
(以下「基本計画」と略) 策定  
「基本計画」III.4.(4)記載の施策は、国立国会図書館が中心となって  
取り組むこととされた
- 2023年7月  
[「電子図書館のアクセシビリティ対応ガイドライン1.0」](#) 公開



# 「基本計画」 III.4.(4)

## III. 施策の方向性

### 4. アクセシブルな電子書籍等の販売等の促進等

#### (4) その他

音声読み上げ機能（TTS）等に対応したアクセシブルな電子書籍等を提供する民間電子書籍サービスについて、関係団体の協力を得つつ図書館における適切な基準の整理等を行い、図書館への導入を支援する。





# ガイドラインの目的・適用範囲

---

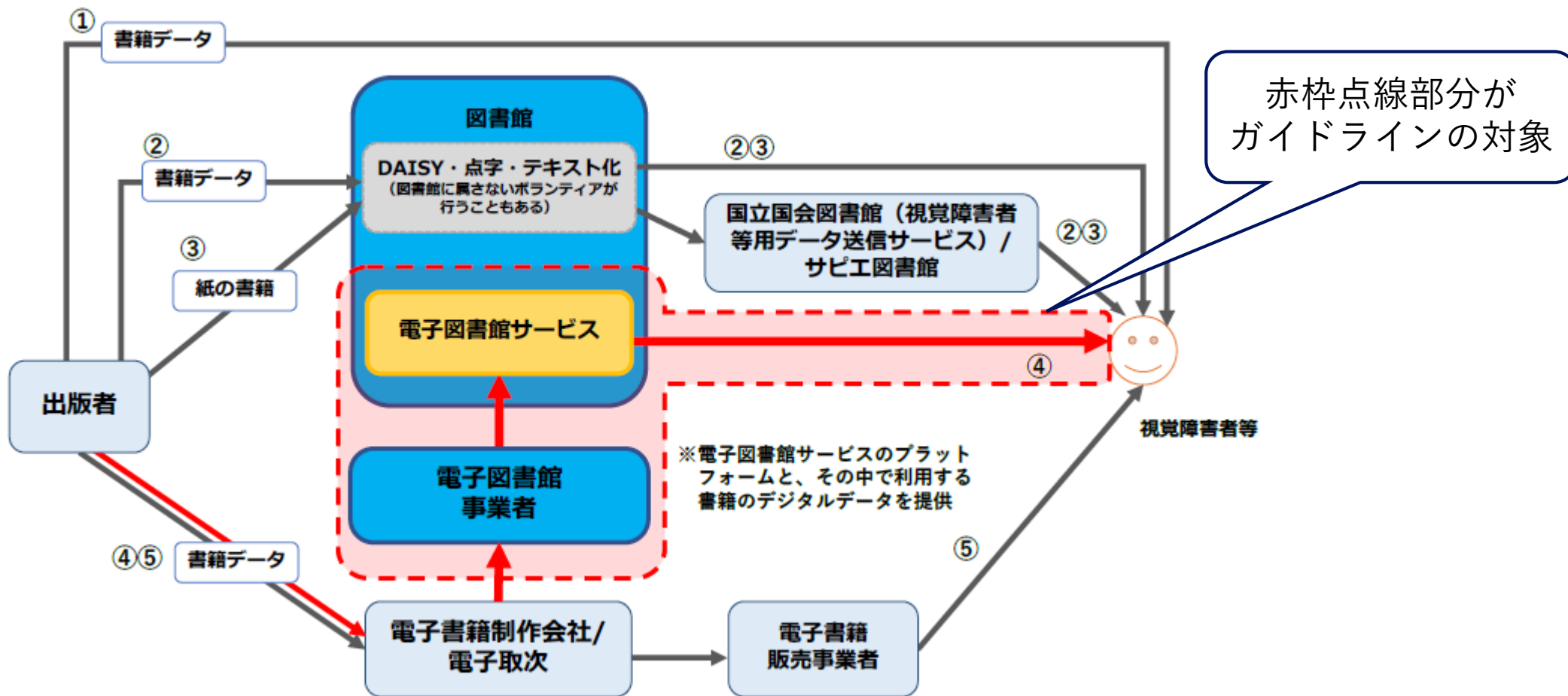
---

---

- 視覚障害者等が電子図書館を利用するにあたって必要なアクセシビリティに関する要件を整理する
- 公立図書館、大学図書館、学校図書館（「公立図書館等」）及び電子図書館事業者に活用されることを想定



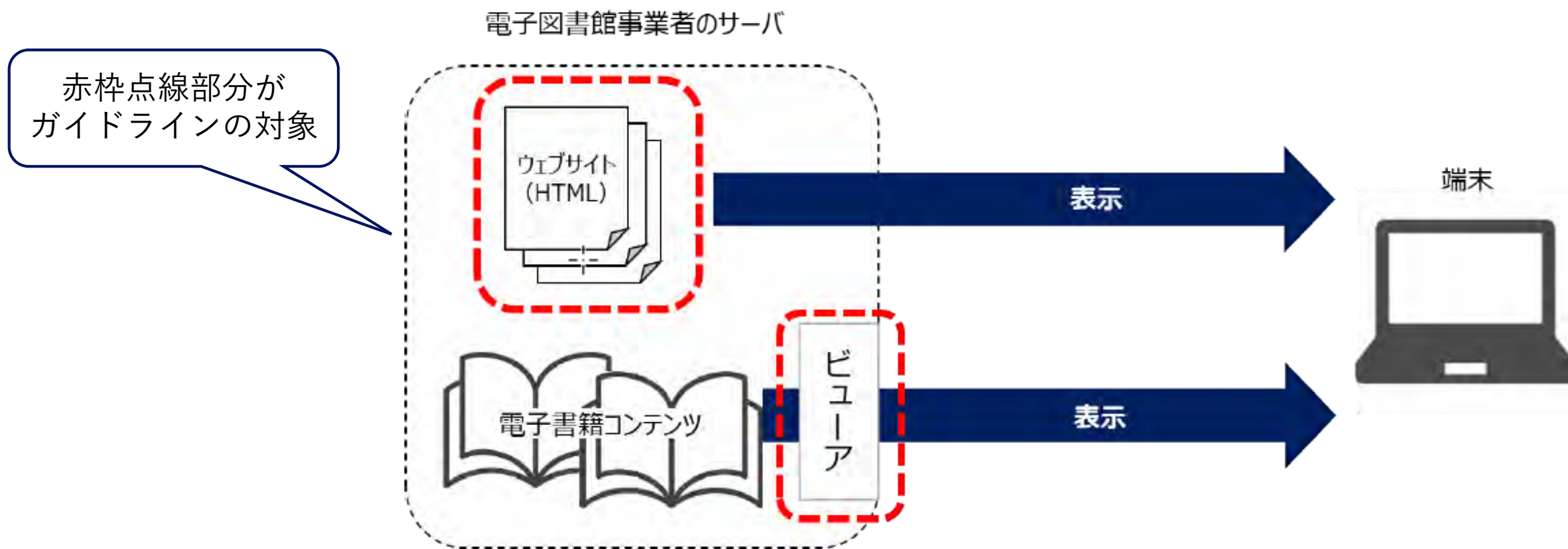
# ガイドラインの対象範囲



(「[電子図書館のアクセシビリティ対応ガイドライン1.0](#)」 p.4より)



# 電子図書館のシステムにおける範囲



(「[電子図書館のアクセシビリティ対応ガイドライン1.0](#)」 p.4より)



# 対応方法のポイント

- ① 電子図書館の利用手順に即したアクセシビリティ要件
- ② 各アクセシビリティ要件に参考規格を紐づけ
- ③ 各アクセシビリティ要件を3段階に重みづけ

1

例) 6.1.3.3.1. 検索条件入力欄・検索実行ボタンへのラベルの付与【ステップ1】

## ■ 内容

検索条件入力欄及び検索実行ボタンに適切なラベルを付与すること。スクリーンリーダーで検索条件入力欄あるいは検索実行ボタンであることを知らせるようにつづけること。

2

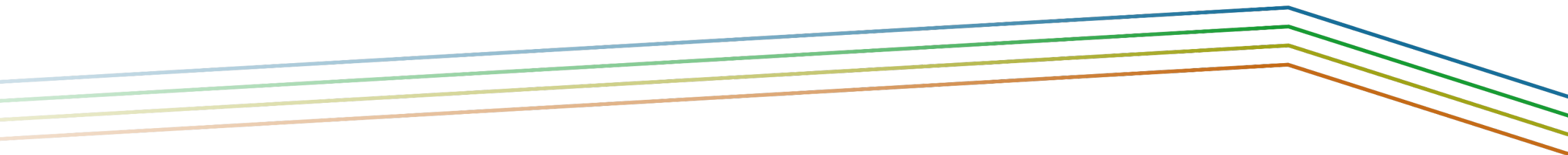
## ■ 参考規格

- ・ JIS X8341-3:2016 「3.3.2 ラベル又は説明（レベルA）」
- ・ WCAG 2.0 達成方法集「G131 説明的なラベルを提供する」「H44 テキストラベルとフォームコントロールを関連付けるために、label要素を使用する」

3



# WA対応の始め方・進め方のまとめ



# WA対応の始め方・進め方のまとめ（1）

達成すべき事項の  
認識

- WAで達成すべき事項を理解する
- 達成基準に適合するコンテンツを作成する～個別試験

不適合箇所の把握

- 個別検証の実施
- miCheckerやLighthouseなどの評価ツールで確認

対応の実施

- 日常の業務の中で
- 事業者等への発注時/日常的な情報交換



## WA対応の始め方・進め方のまとめ（2）

---

---

- 一気に目標を達成しなくてもよい
- できるところからコツコツ進める
- 試験・検証の不適合箇所ですべて対応しても（適合レベルAAに準拠となっても）そこで対応は終わりではない
- 技術は進歩するし規格も更新される。やったら終わりではない。
  
- 無理はしない。放置もしない。

